

日本バプテスト仙台基督教会の誕生 1955

はじめに

仙台教会では第1主日の礼拝で主の晩餐を行い、それに続けて「仙台教会の喜びとビジョン」¹を唱和しています。本来なら仙台教会が依って立つ「日本バプテスト仙台基督教会信仰告白」²を皆で毎月確認できればいいのですが、何せ400字詰め原稿用紙2枚以上になる分量です。技術的にも、時間的にも、体力的にも、全員で唱和するには少し難がありますし、下手をすると意味も考えずお経のように唱えてしまう危険性もあります。

とは言え、私たちがどんな共通土台に立って教会形成を行おうとしているのか、そのことを定期的に確認することはとても大切です。そのような思いから、主の晩餐とセットで「喜びとビジョン」を唱和することになりました。開始したのは1999年（平成11）4月でした³。約13年間仙台教会を豊かに牧会された金子純雄牧師⁴が辞任され、1年間の専任牧師不在期間を過ごし、新しく青木康弘牧師⁵をお迎えした時期でしたので、これからの仙台教会がいかにして立つのか、その土台を新たな思いで皆でしっかり確認することは、至極当然のことでした。ですから主の晩餐に続け「喜びとビジョン」を唱和するスタイルが生み出されたのは、仙台教会としては必然だったと言っていいのでしょう。

1. 「正月スランプ」の“洗礼”

グラント宣教師夫妻の仙台における開拓伝道は、1952年（昭和27）11月の特別伝道集会から開始されました。この時は仙台市公会堂の会議室を借りての集会でしたが、それ以降の日曜日の礼拝は立町のYMCAをお借りして行い⁶、その状態は北四番丁に仙台バプテスト教会幼稚園の仮園舎ができる1954年（昭和29）春まで続きました。

YMCAで行われた毎週の礼拝の中で、グラント宣教師には忘れられない日がありました。開拓伝道を開始してから2カ月もたたない時に祝った仙台での初のクリスマス礼拝には大勢の人々が集まり、礼拝後の交わりの時間も大変盛況で、キャサリン夫人が準備したお菓子を味わいながら皆で楽しく時を過ごしました。やがて誕生

する教会の核となる人物がこの中から育つのだろう、との期待が大きく膨らみます。

そのような期待と希望を胸に宣教師一家は、1953年（昭和28）の新年最初の日曜日（1月4日）を迎えます。一家はいつもの時間にYMCAに行き、薪ストーブに火を入れて礼拝を行う部屋を暖め、皆を迎え入れる準備をしました。ところが礼拝を開始する時間になっても誰一人現れないのです。10分過ぎ、20分過ぎ、そしてついには45分過ぎても誰も姿を見せませんでした。深い失望と敗北感に打ちのめされながら、礼拝を行う代わりに町中の交通量の多い交差点で寒空の下、数百枚のチラシ配りを家族全員で行いました。日本にやってくる宣教師が受ける「正月スランプ」の強烈な“洗礼”でした⁷。

2. 日本バプテスト仙台基督教会の誕生

仙台で迎えた3回目の新年。1955年（昭和30）1月2日（日）も「正月スランプ」に陥ったかどうかは不明ですが、翌週9日は大変重要な日曜日となりました。礼拝後、これまでグラント宣教師からバプテスマを受けた人たちや、他教会でバプテスマを受け仙台バプテスト伝道所の群れに加わった人たちが総会を開き、教会を組織することを決議したのです⁸。総会では集まった人たちの篤い信仰の思いと強い決意を確かめ合うことができましたが、教会を正式に設立させるためにはそれだけではまだ不十分です。自分たちがどのような信仰を共有し教会を設立しようとしているのか、責任をもって教会形成に加わるメンバーは誰々なのか、この群れの信仰とこれまでの歩みと実績は、日本バプテスト連盟に加盟するに相応しいものか、といったことを客観的に示す資料を準備し、教会を正式に設立させ、更に連盟加盟を承認してもらう手続きが必須です。1月9日の総会決議を受け、2カ月以上の準備の期間を経て、3月25日（金）に教会組織会議が行われ「日本バプテスト仙台基督教会」が誕生しました⁹。そして7月に開催された第9回日本バプテスト連盟年次総会で、仙台教会の加盟が満場一致で認められることとなります。ちなみに教会組織時の「信仰告白」は以下の通りです¹⁰。

バプテストには「信条」はない。それは、キリスト信徒の信仰的規範は徹頭徹尾聖書の中にのみ求められるべきであって、而もそれは信徒各自の自由な信仰的判断によって為されねばならないことであるから、成文化さ

れたる聖書以外の何ものにも、聖書に代わるべき権威を認めることはできないと云うバプテスト本来の立場に基づくのである。仙台バプテスト教会は、このバプテスト本来の立場に立ち、昭和 22 年日本バプテスト連盟第一次総会に於て採択されたる「日本バプテスト連盟信仰宣言」を教会の信仰告白として採択する。勿論その各條項についての細密なる神学的解釈は各自の信仰的良心的判断によって為されねばならない。更にバプテスト本来の立場の細目については、「バプテスト教会員必携」中の「バプテスト主義」に従うこととする。尚当教会に入会する者は、同必携中の「教会の約束」を固く守るべきことを約さねばならない。

3. 新しい信仰告白のもとで

上記の信仰告白の文言には、教会組織にあたっての緊張感が漂っています。日本社会の中では小さな群れでしかない自分たちは、結束して歩まなければならない、という思いがにじんでいます。

その時から 70 年ほどの時を経た現在、私たちは 2010 年（平成 22）に改訂した新しい信仰告白のもとに教会形成に励んでいます¹¹。この改訂作業には 20 年以上¹²を要しましたが、作業の中間地点では、教会員一人ひとりの信仰的な思いを集約した「仙台教会の喜びとビジョン」を作成し、仙台教会が目指すべき方向性をカジュアルな形で共有できるようにしました。

「仙台教会信仰告白」や「喜びとビジョン」を土台に、各自の信仰に基づく主への自由かつ良心的な応答姿勢と、教会の業への責任ある態度を大切にしながら、これからも仙台教会の成長のために力を合わせていきたいと願っています。

（文責：小林孝男）

年月	朝拝			夕拝			祈祷会		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1954年9月	16	30	46	7	4	11	5	2	7
1954年10月	23	30	53	10	3	13	7	1	8
1954年11月	33	58	91	18	16	34	10	3	13
1954年12月	28	51	79	15	14	29	11	8	19
1955年1月	18	37	55	10	6	16	7	4	11
1955年2月	20	50	70	9	7	16	8.5	2.5	11
1955年3月	23	47	70	8	7	15	6	5	11
1955年4月	30	53	83	7	7	14	6	6	12
1955年5月	25	52	77	8	7	15	6	4	10
1955年6月	29	58	87	8	4	12	9	4	13
1955年7月	27	43	70						

教会組織前後の時期の礼拝・祈祷会出席者数

¹ 仙台教会の信仰告白の改訂作業の中で、教会員の信仰的な思いを集約し作成されたもので、1997年(平成9)10月12日に制定された。本文は各週の週報4面、及び<https://www.kitayon.com/about>参照のこと

² 信仰告白の本文は教会のホームページ参照のこと <https://www.kitayon.com/about>

³ 週報(1999/04/04)

⁴ 1932/11/15 生まれ、1947/5/25 受浸。小倉教会、平尾教会の牧師を経て1984(昭和59)12月から1998年(平成10)3月まで仙台教会を牧会。仙台教会牧師退任後、福島旭町教会郡山伝道所(現、郡山コスモス通り教会)、仙台北教会(現、仙台長命ヶ丘教会)、大富教会での牧師、協力牧師の働きを経て引退。日本バプテスト連盟常務理事(1977-1984年度)、同理事長(1991-1994年度)を歴任

⁵ 仙台教会での牧師期間は1999年(平成11)4月～2002年(平成14)7月

⁶ 『主の息吹の中で』18頁

⁷ 同上 28-29頁

⁸ 資料(1955/03/25_仙台バプテスト伝道所沿革と教会員名簿)

⁹ 仙台教会ではこの日を教会組織記念日としている。

¹⁰ 資料(1955/03/25_教会組織及び連盟加入資料)

¹¹ 資料(2010/03/21_2010 予算総会)16~20頁、仙台教会は2010年3月に信仰告白を改訂

¹² 1986年(昭和61)10月の臨時総会で仙台教会将来計画大綱が可決され、翌年の2月の総会で信仰告白検討委員会と建築企画委員会の設置が決定した。しかし、実際に信仰告白検討委員会が動き始めたのは2年3カ月後の1989年(平成1)1月であった。この間の事情が「信仰告白委員会ニュース」に次のように書かれている。

「(1989年)1月29日に信仰告白検討委員会の第1回の話し合いを持つことができました。かなり前からこの委員会の必要性が訴えられ、委員長としての役目を私(小林)が仰せつかっていましたが、延び延びになってしまったことを深くお詫びいたします。実は私自身、先に行われたスチュワードシップ研修会での村松兄(注:浦和教会の村松久太郎さん。1/22の礼拝と研修会で奉仕)の話しを伺って、やっとこの委員会が何をすべきなのかのイメージがわいてきたところなのです。教会を建てるということは、第一義的には資金計画や設計図の問題ではなく、正にその教会のよって立つところの「信仰告白」の問題なのです。

教会建設という大事業を前にして、委員会の作業はもちろん悠長にはしておられません、しかし、教会員全体の理解と協力のもとに作業を進めていかなければ意味のないものになってしまうでしょう。その意味からも委員会としては丁寧に、焦らず、怠けず、着実に任務を果たしていきたいと思っています。よろしくご協力ください。」